

第 18 次いわき市水道事業経営審議会第 5 回議事録

- 1 日 時 令和 4 年 12 月 21 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 4 時 20 分
- 2 場 所 水道局 3 階 第 1 会議室
- 3 出席者
委員 （出席：12 名）
石山伯夫、伊藤誠、今井滋、上遠野恭子、金田晴美、熊田哲也、佐久間幸子、
鈴木俊彦、鈴木礼子、原田正光、古川広子、山田隆
（欠席：3 名）
河合伸、草野充宏、堀江一到
50 音順・敬称略
事務局 上遠野管理者、大津局長、則政次長、佐藤次長、阿部総務課長、
秋山人材育成・防災力向上担当課長、佐野経営戦略課長、吉田営業課長、
深澤配水課主幹（代理出席）、緑川工務課長、小山浄水課長、
本村南部工事事務所長（欠席）
経営戦略課
齋藤主幹、鈴木補佐
〔企画係〕内田係長、金成主任技査、齋藤主査、湯澤主事、國分主事
〔財務係〕小泉係長、吉田事務主任
- 4 会議形式 公開
- 5 傍聴者 0 名
- 6 会議次第
開会
会長あいさつ
議事
ア 第 4 回審議会の議事録（案）について
イ いわき市水道事業事業評価について（平成 29 年度から令和 3 年度までの総括的評価）
ウ 令和 3 年度いわき市水道事業決算の概要・財政計画との比較について
その他
閉会
- 7 審議事項
前回（第 4 回）で質問のあった、いわき水みらいビジョン 2031 の総事業費について、「資料 5 補足説明資料」により、事務局から補足説明を行った。
< 審議要旨 >
委員から、「水みらいビジョン建設改良費と財政収支計画建設改良費について、なぜ差額が発生するのか。」と質問があり、事務局から、「水みらいビジョン建設改良費は一定の積算基準に基づいた予算ベースで見込んでいるが、財政収支計画建設改良費は、中長期の財政運営を適正に行うことを目的に、これまでの工事入札の請負差額の実績を反映させた決

算ベースでの算出としているためである。」と回答した。

第4回審議会の議事録(案)について

第4回の議事録が了承された。

いわき市水道事業事業評価について(平成29年度から令和3年度までの総括的評価)

<事務局説明>

資料6「いわき市水道事業事業評価(平成29年度から令和3年度までの総括的評価)」に基づき説明を行った。

<審議要旨>

委員から、「事業番号17基幹浄水場連絡管整備事業について、平・鹿島水系幹線が完成し、どのように運用されているのか。運用されている場合は、いざという時にバックアップ可能となるように平常時から維持管理をしておいた方がいいと思うが、一方で、平常時から平方面から中央台地区へ送水する場合、ポンプ場を経由することとなり、エネルギーを使用するというSDGsの観点に背反する状況となるため、その辺をぜひ整理し、市民の皆さんに説明いただけるとよいのではないかと。また、小名浜配水池の方から平配水池の方には送水はできるのか。」と質問があり、事務局から、「中央台地区への配水は南部方面からのみの配水であったが、平・鹿島水系幹線が完成したことから、一部を平方面から常時配水するという配水運用を行っている。なお、平方面からの配水はポンプ場を経由するため南部方面と比較し電力消費量が大きくなることと、必要時にバックアップを可能とするために定期的な運用が必要なことの両方を考慮した上で配水運用を行っており、そういった運用の説明の仕方については工夫していきたい。また、小名浜配水池から平配水池への送水については、配水池の高低差の関係から難しい。」と回答した。

委員から、「事業番号17基幹浄水場連絡管整備事業について、平浄水場から中央台地区や小名浜地区へのバックアップが可能となり、非常時給水の安定性が向上したことは評価する。その上で、情報発信時には分かりやすく表現するようにしてほしい。また、新たな財源確保推進の実施、さらには、浄水発生土の再資源化によりコスト縮減を図り、水道財政が厳しい中で効果が上がっているということは評価する。」との意見があった。

委員から、「経営プランの主な成果については、まとめて公表するだけでなく、例えば広報紙などで1つ項目を取り上げて、わかりやすい表現でお知らせするようなことも必要と思われる。」との意見があった。

[まとめ]

会長から、次のとおり意見の総括案が示され、審議会として確認がなされた。

- ・ 全体的に集約すれば、経営プランで示している「安全」「強靱」「持続」の3つの方向性ごとに掲げた、11の大きな目標については、B評価が1つあったものの、新型コロナウイルス感染症の影響という不可抗力的な要因であることを踏まえれば、目標は概ね達成されたということを確認した。
- ・ 「事業運営評価」については、目標3.3環境負荷低減による社会貢献では、平成29年度から令和3年度までの計画期間において、浄水場見学会等による水道水源保全の環境教育の推進などの取組の実施を目標として掲げてきたが、令和2年度以降、新型コロナ

ウイルス感染症の影響により、浄水場見学等を中止したことにより、A評価を達成できなかった。目標を達成できなかった指標 25 水道施設見学者割合については、いわき水みらいビジョン 2031 のもと、ウィズコロナ、アフターコロナを踏まえた見学者の増加につながる効果的な方策について検討し実施する必要がある。

- ・ 「業務指標評価」については、管路の耐震化率、配水池の耐震化率などで平成 29 年度から令和 3 年度までの計画期間内に大幅な改善がみられるものの、類似団体より低い状況にあることを確認した。類似団体と比較して低い状況にある指標については、その重要度などを考慮し、いわき水みらいビジョン 2031 に則り展開していく施策の中で引き続き実施していくことで、類似団体に少しでも近づけられるよう望むものである。

令和 3 年度いわき市水道事業決算の概要・財政収支計画との比較について

< 事務局説明 >

資料 7 「令和 3 年度いわき市水道事業決算の概要・財政計画との比較」に基づき説明を行った。

< 審議要旨 >

委員から、「2-4. 財政収支計画（決算反映）について、補填財源・企業債残高の表中の資金残高、企業債残高は、各決算時点での残高となるため、合計欄は不要ではないか。」との意見があり、事務局から、「資金残高、企業債残高の合計欄は削除する。」と回答した。

委員から、「1-1. 収益的収支（損益計算）【対前年度】について、修繕費が令和 2 年度と比較し令和 3 年度が増額となっているが、原因は何か。」との質問があり、事務局から、「令和 3 年度の修繕費については、平浄水場の浄水池の配管に不具合が生じ費用がかかり増額となったものである。なお、令和元年東日本台風の影響による費用としては、災害復旧費として令和元年度に特別損失として計上している。」と回答した。

委員から、「3-2. 供給単価と給水原価の推移について、人件費が減額となっているが、これは人員を効率的に減らしてきたということなのか。」との質問があり、事務局から、「職員数を減らしたことによるものである。その代わりに業務委託等を行い委託料が増加しているが、トータルではコスト削減となっている。」と回答した。

委員から、「3-2. 供給単価と給水原価の推移について、経常経費が 10 数年の間、多少の上昇はあるもののほぼ横ばいとなっており、水道局の努力が表れているものと評価する。」との意見があった。

委員から、「1-2. 有収水量・給水収益推移について、有収水量減の要因は人口減少以外に考えられることはあるのか。」と質問があり、事務局から、「節水機器の普及による影響が大きいと考えている。これまでも節水機器はあったが、以前よりも節水の効果が大きい機器が普及している。また、大口使用者でもある企業も上水道から安価な工業用水道に切り替えて自前で浄化して事業を行っているケースがあり、一般家庭ばかりでなく企業のコスト削減への取り組みも影響があると考えている。」と回答した。

[まとめ]

会長から、次のとおり意見の総括案が示され、審議会として確認がなされた。

- ・ 令和 3 年度決算を反映した財政計画との比較について、令和 3 年度の純利益について

は、計画では約 9.9 億円であったが、決算では約 12.2 億円となり、令和 3 年度末での資金残額は計画と比較して約 41 億円増の約 76 億円となったことにより、財政計画に基づいた財政運営がなされていることを確認した。

その他

委員から、「すいどういわき第 88 号について、表紙のデザインが変わり評価できるが、先ほど説明があった事業内容の説明記事が正確に書いてあるものの分かりにくいため、もう少しやさしい言葉で伝えていけないものか。」との意見があり、事務局から、「第 88 号からリニューアルし、ページの中身についてもピクトグラムを利用し始めたところである。今回は一覧的な形で掲載しているが、今後は Twitter で行っているように平易な文章で分かりやすく、全部を伝えるのではなくポイントを絞って 1 つずつ伝えていきたいと考えている。」と回答した。

委員から、「広報紙について、水道局の意図することが伝わらなければ何にもならないので、市民の皆さんに幅広く理解してもらうことが今後の課題だと思う。」との意見があり、事務局から、「市民の皆様へ水道局の意図が伝わるような広報紙の作成について、令和 4 年度は水道局独自でリニューアルし、作成してみたが、令和 5 年度には外部から専門家を入れて民間の企画会社のノウハウを取り入れることを試してみたいと考えている。」と回答した。

委員から、「令和元年東日本台風による断水は地域に大きな影響を与えたと思っており、いわき市水道事業評価に関し、その関連項目について単年度では低い評価となるが、5 年間の総括的評価や総合評価では平均されるなどして高い評価となっている。企業としても、費用負担であったり、また、大型給水車を購入するなど対応に投資をしたりしているのだが、水道局としては高い評価となっているのが納得できない部分がある。」との意見があり、事務局から、「令和元年東日本台風の災害は非常に重く受け止めており、災害対策には力を入れている。この経験を踏まえ、新たな計画である水道施設総合整備計画やいわき水みらいビジョン 2031 に津波・浸水対策を位置付け、重点的に取り組むこととしている。平浄水場の浸水対策についても現在は仮設で対策済であるが、令和 5 年度からの工事着手に向け事務を進めている。」と回答した。

次回の審議会について

- ・ 日時 令和 5 年 5 月中旬（会長と日程調整の上、各委員へ通知）

第 5 回審議会議事録について

- ・ 次回開催まで約半年あることから、議事録（案）を委員それぞれに郵送し内容の確認をお願いする。

8 閉 会